

# 環

# 日本海

# の文化交流

出会い・交錯・摩擦・融合

## プログラム

総合司会 野村 真理(日本学術会議第一部会員、金沢大学)  
挨拶 山崎 光悦(金沢大学長)  
大西 隆(日本学術会議会長、豊橋技術科学大学長)

## 報告

趣旨説明 佐藤 学(日本学術会議第一部部長、学習院大学)  
報告者 小島 毅(日本学術会議第一部連携会員、東京大学)  
「東アジアの海域交流と北陸の文化」  
上田 望(金沢大学)  
「文化資源としての伝統芸能の可能性:日中両国の調査・保護活動の取り組みから考える」  
四方田犬彦(映画史・比較文化研究家)  
「東アジア 伝統演劇とメロドラマ映画の諸相」

## コメントおよび総合討論

司会 鏡味 治也(日本学術会議第一部連携会員、金沢大学)  
コメント 中村 慎一(金沢大学副学長)  
李 香鎮(立教大学)

## 閉会のことば

大沢 真理(日本学術会議第一部副部長、東京大学)

平成 26 年 8 月 3 日(日)  
13:00~17:00

石川県政記念  
しいのき迎賓館 2階  
ガーデンルーム



一般公開  
参加費無料  
申込不要

主催:日本学術会議第一部・金沢大学  
共催:金沢大学国際文化資源学研究センター  
後援:(公財)日本学術協力財団



問合せ先:金沢大学(nomurama@staff.kanazawa-u.ac.jp)  
学術会議第一部(s251@scj.go.jp)

# 環日本海の文化交流 ～出会い・交錯・摩擦・融合～



日本の伝統文化の成立・展開は、「から船」（唐船、韓船）が往来する**環日本海**を舞台とした海域交流の長大な歴史を抜きにして考えることはできません。このような歴史的事情を十分に踏まえて、長いタイムスパンで環日本海域、特に中国、韓国、日本の**三国間の文化交流**を、今後の相互交流発展の可能性も視野におさめて議論します。

## 報告者のプロフィール

「東アジアの海域交流と北陸の文化」

### 小島 毅

1962年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は中国思想文化、なかでも、宋から清にいたる時期の儒教を専攻。これまで朱子学の形成と展開の過程を、狭義の哲学史に限定するのではなく、当時の政治文化の文脈から再検討する作業を進めてきた。主な著書に『朱子学と陽明学』『増補 靖国史観——日本思想を読みなおす』（ちくま学芸文庫）、『東アジアの儒教と礼』（山川出版社）、『父が子に語る日本史』（トランスビュー）などがある。



「文化資源としての伝統芸能の可能性

— 一日中両国の調査・保護活動の取組みから考える —

### 上田 望

1965年生まれ。金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系教授。『三国志演義』等、中国古典小説の成書過程、明清の出版文化、中国や日本における中国古典小説の受容史の解明に取り組んでいる。また併せて、『三国志演義』等の成立や流布に演劇や語り物がどのように関わっていたか、地域社会において芸能がどのような意味を持っていたかについて研究を進めている。



「東アジア 伝統演劇とメロドラマ映画の諸相」

### 四方田 犬彦

1953年生まれ。東京大学で宗教学を、大学院で比較文学を修める。明治学院大学教授として長らく映画史を講じた後、現在は映画と文学を中心に批評活動に専念。最近の著作は、『ルイス・ブニュエル』（作品社）『マルクスの三つの顔』（亜紀書房）『アジア全方位』（晶文社）『日本の漫画への感謝』（潮出版社）ほか。斉藤緑雨文学賞、サントリー学芸賞、桑原武夫学芸賞、芸術選奨文部科学大臣賞など受賞多数。年に一度は来沢する、大の金沢ファン。

